

## ●担い手との意見交換実施状況（令和元年度）

令和2年4月

（公財）三重県農林水産支援センター

農地中間管理事業に係る農業者等との意見交換については、県、市町、JA等の協力を得ながら、担い手を対象として県の地域事務所ごとに設置された「農地中間管理事業推進チーム」とともに、当センター（機構）が地域に出向き、事業活用の説明・啓発と併せて、事業の円滑な実施に向けた課題や要望等について意見交換等を実施しました。

また、連携協定に基づいて担い手農業者（農業法人会、稲作経営者会議、指導農業士、青年農業士、農村女性アドバイザー、担い手ネットワークの各代表者）との意見交換会を開催するとともに、役員会等の場に出席し、意見交換や情報交換をしました。

### \* 令和元年度実施状況

期間	開催回数	備 考
周年	58回	・各地域の担い手（集落や個別）との意見交換含む ・代表的な意見交換の概要は別紙のとおり

(別紙)

### 担い手農業者との意見交換（結果概要）

開催日	参加者	主な意見	令和元年度の改善点
令和元年 7月19日	三重県青年農業士 連絡協議会役員、 県、機構  参加者数：12名	・担い手への農地集積・集約化を進めるためには、地域の状況に合わせた話し合いを進めるため、関係機関が一体となって、人・農地プランの実質化の取り組みを進めていく必要がある。	・地域での話し合いを進めるためには、農業委員・農地利用最適化推進員の役割が期待されていることから、県・農業会議と連携して農地利用最適化推進員の具体的な役割や取組みの優良事例などを含めた研修会を開催しました。 また、人・農地プランの実質化を推進するため、市町等関係機関と連携して集落説明会等に参加し啓発しました。
令和2年 1月20日	担い手農業者(指 導農業士、青年農 業士、農村女性ド バイター、担い手ネッ トワーク、農業法人会、 稲作経営者会議の 各代表者)、農業会 議、農政局、県、機 構  参加者数：25名	・大規模農家への集約化だけでは地域を守ることができない。中小規模でも経営が成り立つような政策等を考えてほしい。 また、畑作や果樹などでは、地域における話し合いの素地がなく、今後の話し合いをどうしていくかが課題である。	・担い手等から寄せられた意見については、あらゆる機会を通じて国や県に対して要望するとともに、昨年度の茶に引続き果樹のワークショップ(県主催)により、市町等関係機関で方策などについて話し合いを行いました。